

サトイモ愛媛農試V2号（伊予美人）を凌駕する品種の開発について

農林水産研究所

1 サトイモ愛媛農試V2号(伊予美人)の評価と実績

品質が良く多収性で単価が高い



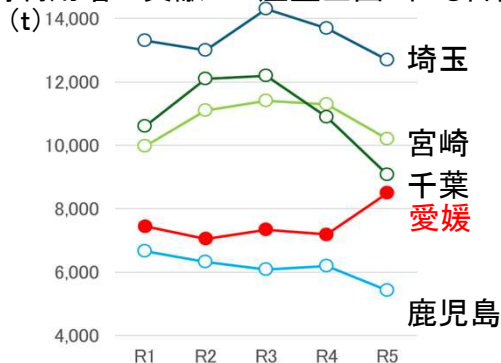
伊予美人の煮芋は白くて粘り強い
平均反収*1 2,170kg
平均単価*2 302円/Kg



石川早生の煮芋は灰色で粉質
平均反収 1,547kg
平均単価 272円/Kg

*1 平均反収:2020-22年野菜生産出荷統計 *2 平均単価:2021-23年大阪中央市場

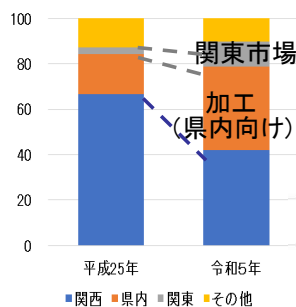
出荷利用増に貢献 生産量全国3位も目前



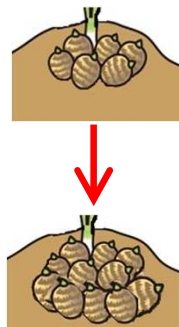
主要生産県の出荷量の推移（野菜生産出荷統計）

本品種は令和15年度の育成者権切れに伴う優位性消滅が懸念

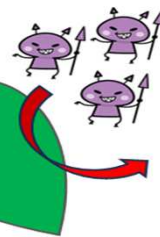
2 どのようなサトイモを目指すか



① 関東市場、加工出荷が倍増
⇒孫芋を大きくして有利販売につなげる



② 機械化による大規模・省力生産が進展
⇒一株収量の増加で機械作業の効率化



③ 疫病が発生し防除回数が増加
⇒疫病抵抗性をつける

3 先行研究によるシーズと育成スケジュール

先行研究により、サトイモ愛媛農試V2号(伊予美人)と比較して、収量性に特徴のある物(9系統)、糖度等の品質に特徴がある物(7系統)あわせて16系統が得られている。特に収量性に特徴のある9系統のうち、6系統が総収量が同等で、平均孫芋重が大きい系統を**個重タイプ**と命名し注目している。令和10年度から現地試験開始、令和13年度に品種登録申請を目指す

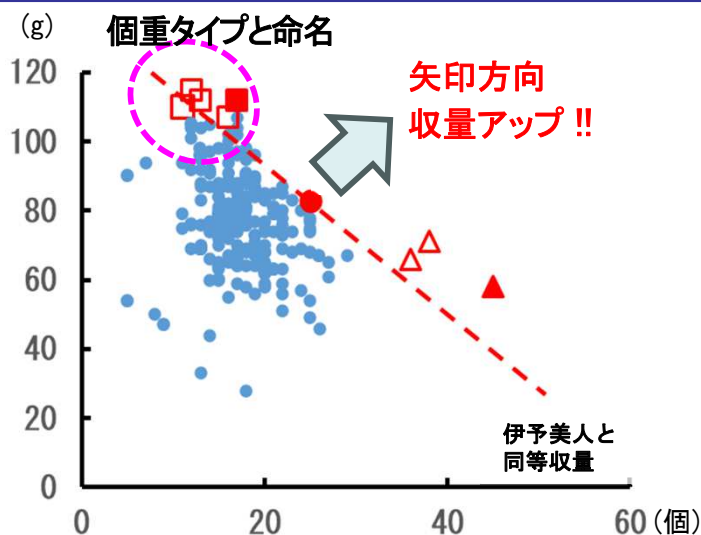


図 1株あたり孫芋数と平均孫芋重



個重タイプ



愛媛農試V2号
(伊予美人)

図 個重タイプと伊予美人の比較(2株分)
総収量は同等で孫芋一つが大きい。